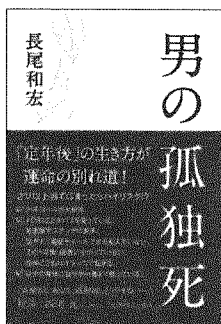


在宅医療の光と影を描く 本邦初のドキュメンタリー!



男の孤独死
長尾 和宏[著]
ブックマン社 定価:1,300円+税

孤独死の7割が男性! そのリスクは50代から始まっている? 医者が教える、解剖台に乗らないための孤独死回避術。

著者が初めて、男性医学の観点から〈死〉について言及。読むと生き方が変わる、男達への挽歌!

これから訪れる、日本人の死の「現実」をここに書きました。重いタイトルではありますが、今まで医師のどなたも書いてこなかった衝撃的な内容だと自負しております。

●孤独死というものの実態を知ってほしい。

- 人生の最期に、無用な警察の介入は防いでほしい。
- 一人でも最期まで安心して暮らせるように見守り体制を作ってほしい。

そんな思いから、この本を書きました。男の孤独死は思いのほか、身近にあります。そのことを意識したうえで、60歳から75歳までの生き方を一緒に考えていきましょう。そしてぜひ、夫やお父さん、兄弟に孤独死されたらイヤだなあと思っている女性の方にこそ、この本を読んでいただけたら幸いです。私も明日、孤独死するかもしれません……。

【目次】

プロローグ

第1章 これが「孤独死」の現実

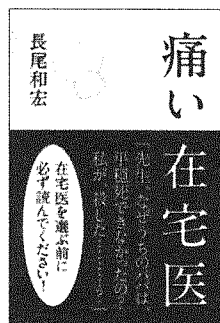
第2章 既婚者の孤独
——妻に怯える男たち

第3章 男はそもそもできそこない!?

第4章 「下流老人」と「孤独死」

第5章 孤独死回避術はあるのか?

対談 解剖台に乗らないためにできること 西尾元×長尾和宏



痛い在宅医
長尾 和宏[著]
ブックマン社 定価:1,300円+税

私が高まで、「病院」か「在宅」かという、二元論でしか語っていなかったとしたら、そして在宅医療の美談しか語っていなかったとしたら、心から謝ります。だから、あえてこの本を書きました……。

父がとても苦しんでいるのに、在宅医も訪問看護師も、臨終のときに来てはくれませんでした。…在宅看取りなんて簡単にできるものではないのだと、大病院の先生は言いました…。家で看取れば「平穏死」できるなんて、嘘じゃないか!

末期がんの父の在宅看取りを後悔する娘が、在宅医療界をリード

●長尾和宏(ながおかずひろ)
医学博士。医療法人裕和会理事長。長尾クリニック院長。一般社団法人日本尊厳死協会副理事長・関西支部長。日本慢性期医療協会理事。日本ホスピス在宅ケア研究会理事。全国在宅療養支援診療所連絡会理事。一般社団法人エンドオブライフ・ケア協会理事。一般社団法人抗認知症薬の適量処方を実現する会代表理事。関西国際大学客員教授。2012年「[平穏死]10の条件」はベストセラーに。「男の孤独死」「痛くない死に方」「薬のやめどき」「抗がん剤10の「やめどき」」(すべてブックマン社)、「病気の9割は歩くだけで治る」「歩き方で人生が変わる」(山と溪谷社)など。

する長尾医師に噛みついた。大切なのは、どこで死ぬか? ではない。どう死ぬか? どう見送るか? なんだ。「家で死にたい」と望む人が6割の今、最期の望みを叶えるために必要な条件とは? —これから訪れる、日本人の死の「現実」をここに書きました。重いタイトルではありますが、今まで医師のどなたも書いてこなかった衝撃的な内容だと自負しております。

【目次】

第1章 長尾和宏とある娘の対話

第2章 ボタンの掛け違い—在宅医、病院の主治医の考え方

第3章 それも「平穏死」、と長尾が言う理由

コラム ~もっと知りたい人のために~
あとがき 在宅医療の理想と現実

おすすめの
本

